

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
現代知的財産制度特論 (Advanced Study of Modern Intellectual Property System)	MPCE01	2	1年次	前期	内藤 浩樹(ナイノウ ヒロキ) 矢作 嘉章(ヤハギ ヨシアキ) 杉浦 淳(スギウラ ジュン)

授業のねらい概要	現代知的財産制度は時代の変化に対応する必要があり、そのために課題も山積し、著作権保護の問題、不正競争防止法に関する課題、職務発明問題、消尽問題、意匠や商標の国際的保護動向、知的財産の国際的保護に関連しての南北問題、保護の対象に関するバイオテクノロジー、医療技術の特許保護問題等多様である。これらの課題の構造的な問題点を理解し、併せてその問題をどのようにして解決していくべきか、企業責任者を含む専門家の講義を聴き、かつ自らも当事者意識を持って総合的に考える機会とする。 授業では各分野の専門家がそれぞれの分野における知的財産制度の現状と課題について詳細に講義を行い、受講者と質疑応答する方法をとる。講義により問題の所在、解決の方向等について理解し、質疑応答・討論により理解を深め、自身でも考えていく。受講生は授業の最後の2回には単独又はグループを構成し、現代知的財産制度全体の中で特定の課題・テーマに関して、その課題の整理と今後の解決の方向をまとめて発表し、他の受講生と質疑応答をする。又、授業回数の中で、関心を持つテーマについて中間的な整理を行うレポート提出が求められる。(尚、以下の講義の順序は講師の都合により変更される場合がある。)
----------	---

回数	テーマ	授業の内容・教育方法	予習/復習
第1回	概説、現代知的財産制度の課題と対応、歴史的背景	講義の狙い、進め方などを説明する。知的財産制度の直面する課題の全体を体系的に整理し、その解決の方向について考える。また歴史的背景についても併せて考える。	現代知的財産制度の課題にはどのようなものがあるか検討していく。授業後にその検討をさらに見直し、自身の考えをまとめる(4H)
第2回	わが国の現代特許制度の現状と在り方	わが国の現代特許制度の現状と在り方について、国際動向とも比較しながら解説し、今後のありかたを検討する。	わが国の現代特許制度の現状と課題について予習し、授業後さらに自己の考えを深める(4H)。
第3回	医薬産業と特許問題	医薬産業が直面する特許問題について、その特許保護の可能性と医療行為への権利行使の問題についても併せて考える。	授業テーマに関する現代知的財産制度の現状と課題について予習し、授業後さらに自己の考えを深める(4H)。
第4回	産業政策と知的財産 - 不正競争防止法改正動向とその経緯	産業政策における知的財産制度の在り方、特に不正競争法制について改正の経緯を理解し、今後の課題を明らかにする。	授業テーマに関する現代知的財産制度の現状と課題について予習し、授業後さらに自己の考えを深める(4H)
第5回	知的財産政策と国際的枠組みとその課題	知的財産政策の展開過程、および国際的枠組みを理解するとともに、その課題と対応策について検討する。	授業テーマに関する現代知的財産制度の現状と課題について予習し、授業後さらに自己の考えを深める(4H)。
第6回	企業の知的財産マネジメントとその動向	企業における知的財産マネジメントの在り方、人材育成について考える。	授業テーマに関する現代知的財産制度の現状と課題について予習し、授業後さらに自己の考えを深める(4H)。
第7回	企業の技術開発と特許の活用、課題、対応	企業国際事業戦略と技術開発、特許の活用における実態とその課題とそれへの対応を検討する。	授業テーマに関する現代知的財産制度の現状と課題について予習し、授業後さらに自己の考えを深める(4H)。
第8回	バイオテクノロジーと特許問題	バイオテクノロジーに代表される現代の科学研究と特許の直面する課題について考え、その解決策も併せて考える。	授業テーマに関する現代知的財産制度の現状と課題について予習し、授業後さらに自己の考えを深める(4H)。
第9回	中間レポート発表・討論	これまでの講義で扱われた現代知的財産制度の課題について論点を整理し、その対応策についてレポートを提出し発表する。	事前にレポートを作成し、発表後に自己点検し、自身の考えを深める(4H)。
第10回	企業のグローバル知的財産戦略	急速に変化する中国をはじめとするアジアにおける知的財産制度の変遷に向けた企業の対応について考える。	授業テーマに関する現代知的財産制度の現状と課題について予習し、授業後さらに自己の考えを深める(4H)。
第11回	コンテンツビジネスと知的財産	企業においてコンテンツビジネスを行うための商品化権等のライセンス契約の実態を学ぶ。	授業テーマに関する現代知的財産制度の現状と課題について予習し、授業後さらに自己の考えを深める(4H)。
第12回	著作権法に関する問題事例と判決動向	著作権法に関する最近の問題事例と判決内容を分析し、その動向について法的保護の在り方を考える。	授業テーマに関する現代知的財産制度の現状と課題について予習し、授業後さらに自己の考えを深める(4H)。
第13回	現代知的財産制度下における企業の対応	現代知的財産特許制度の課題等を考慮していかに企業は対応するかを講師がプレゼンテーションをし、その後討論をし理解を深める。	授業テーマに関する現代知的財産制度の現状と課題について予習し、授業後さらに自己の考えを深める(4H)。
第14回	課題と対策の発表と討論	講義を経て学んだ現代知的財産制度の直面する課題について、その分析と対応策についての発表と質疑応答をする。方法として検討すべき課題のテーマを絞り、単独又はグループ内で調査分析し、発表し、討論する。	事前にレポートを作成し、発表後に自己点検し、自身の考えを深める(4H)。
第15回	課題と対策の発表と討論	講義を経て学んだ現代知的財産制度の直面する課題について、その分析と対応策についての発表と質疑応答をする。方法として検討すべき課題のテーマを絞り、単独又はグループ内で調査分析し、発表し、討論する。	事前にレポートを作成し、発表後に自己点検し、自身の考えを深める(4H)。

到達目標	1. 現代知的財産制度の現状と課題の全般について理解し、説明できる。 2. 現代知的財産制度の現状と課題の全般について理解するとともに、課題への対応の全般について理解し、説明できる。 3. 現代知的財産制度の現状と課題の全般について理解し、かつ特に関心を持った特定のテーマの現状と課題について説明でき、かつ、具体的な対応策について提案できる。
評価方法	授業時間における発言、理解、中間レポート・最終レポートの内容及び発表と討論を総合して、上記の到達目標の観点から以下の評価割合により評価する。
成績評価基準	レポートにより、到達目標1を達成しているかを判定する。達成していない場合、本単位を取得できない(欠格条件)。 到達目標1を達成している場合に限り、到達目標2、3の達成度を、評価方法に示す内容で総合的に判定する。 到達目標をすべて達成している場合:総合点90~100...評価「A」 到達目標の80%を達成している場合:総合点80~89...評価「B」 到達目標の70%を達成している場合:総合点70~79...評価「C」 到達目標の60%を達成している場合:総合点60~69...評価「D」 到達目標の達成が60%未満と評価される場合:総合点 0~59(または論文審査不合格) ...評価「F」 (注)評価の結果は、「A」~「D」を合格、「F」を不合格とする。

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
			講師から配布される資料、レジュメ		

受講心得	・現代知的財産制度の動向とその課題について、常に意識して受講すること。 ・講師によって受講前の事前準備(予習事項)・受講後の展開(課題と復習事項)の指示が出る場合には、かかる指示に従うこと。 ・大学院授業の仕上げとして、現代知的財産制度の抱える課題の全体について理解し、その対応に対する自己の考えを表明できるようになることを常に意識して受講し、不明な点は受講時又は受講後に必ず講師等に当たり説明すること。 ・課題発表、レポートに対しては、講師からコメントを行うので、その内容についての復習を行うこと。
------	---

オフィスアワー	社会人も対象とする梅田キャンパスにおける外部講師による講義につき、授業時間の前後において、質問を受け付けるとともに、メールによる相談を受付けます。
---------	---